研究主題

「共に学び，共に育つ教育」の推進に関する研究

－「交流籍」を活用した交流及び共同学習の取組の検証を通して－

【研究担当者】　木村史彦　森和佳子　島香実
近藤健一　佐々木一義　最上一郎
大谷哲弘　高橋雅恵　安達史枝

【この研究に対する問い合わせ先】
TEL　0198-27-2821　FAX　0198-27-3562　E-mail　sien-r@center.iwate-ed.jp

「共に学び，共に育つ教育」の推進と「交流籍」を活用した交流及び共同学習

岩手県では，特別支援教育を推進するにあたり，「共に学び，共に育つ教育」を基本理念として掲げています。その理念の実現に向けた一つの取組として，「交流籍」を活用した交流及び共同学習を進めています。

「交流籍」を活用した交流及び共同学習は，特別支援学校に在籍する児童生徒の，居住する地域とのかかわりを促進するものであり，様々な人々と共に助け合い，支え合って生きていくことを学ぶ大切な機会でもあります。今後，さらに計画的・組織的に推進していくことが求められています。

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を計画的・組織的に推進するための要件

平成24年度　小・中学部のある県立特別支援学校における取組の検証結果より

成　果	成果の要因
・自然な交流，積極的な交流，楽しい交流 ・児童生徒の成長・発達 ・児童生徒の相互理解の推進 ・教員間の共通理解 ・地域でのつながりの深まり	・継続した取組 ・事前打合せによる検討・確認の実施 ・活動内容等の工夫 ・小・中学校の支援

課　題	課題の要因
・事前の理解・確認の不足 ・日程調整の困難さ ・支援学校校内体制の不備 ・小・中学校の負担 ・活動内容や参加方法の工夫	・事前の手続き等の理解不足，事前の日程調整が困難 ・交流籍の活用が初年度の取組 ・支援学校における複数児童の交流日の重複，行事と交流日の重複 ・小・中学校における交流の多さ，授業進度の遅れ

改善の方向性
・「交流籍」を活用した交流及び共同学習を理解する手立て ・相互の学校の体制づくりの進め方 ・事前打合せの設定と内容の工夫 ・具体的な学習内容や活動内容の工夫

整理

「交流籍」を活用した交流及び共同学習を計画的・組織的に推進するための要件

- 「交流籍」を活用した交流及び共同学習に対する理解
- 相互の学校体制づくり
- 計画的・具体的な事前打合せの実施
- 具体的な学習内容や活動内容の工夫

◆要件に即した手立ても含め，実践のポイント等を示した交流及び共同学習ガイドブックを作成

理解が深まる　進め方が分かる　すぐに実践ができる

交流及び共同学習ガイドブック

第１章　理解編

交流及び共同学習は，社会性や豊かな人間性をはぐくむなど，相互の児童生徒にとって意義のある教育活動です。「交流籍」を活用することで，より効果的な活動になります。

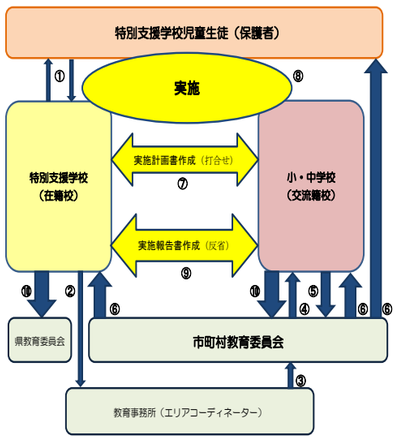
「交流籍」って何？

特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒は，居住地域の小・中学校に保護者の希望で副次的な籍を置くことができます。この副次的な籍を岩手県では「交流籍」と名付けました。正規の学籍は，特別支援学校にあります。

どうして「交流籍」を置くの？

「交流籍」を置くことで先生方，児童生徒，保護者，居住地域の人たちに「同じ地域に住む仲間」という意識を強くもってもらうことがねらいです。居住地域での活動の場を広げ，大人になっても安心して自信をもって生活できる環境を作っていくことを目指しています。

手続きはどうなっているの？



①保護者の希望確認
②教育事務所に申請
③市町村教育委員会に依頼
④小・中学校に実施の確認
⑤市町村教育委員会に回答
⑥交流籍校指定を通知
⑦実施計画書の作成
⑧交流及び共同学習の実施
⑨実施報告書の作成
⑩実施報告書の提出

「共に学び，共に育つ教育」を目指して

進め方ガイド

☆進め方のモデルケース

ガイドブックのページを記載

保護者の希望決定申請	４月，特別支援学校は，保護者に希望を確認し，５月の中旬までに申請します。	
交流籍校決定，連絡	特別支援学校の先生は，相手校に連絡をし，全体実施計画の打合せ日を６月中旬までに設定します。それにより無理なく計画的に交流及び共同学習を実施することができます。	P.16へ
打合せ（実施計画書記入）	事前に打合せの内容を確認しておき，直接会って全体実施計画の打合せをします。また，両校の児童生徒の目標や支援方法など，活動内容等についても具体的に打合せをします。	P.16へ
事前学習	お互いを理解し，スムーズに学習に入る準備です。ここからもう交流及び共同学習がスタートします。	P.26へ
交流及び共同学習の実施	得意な活動を取り入れ，お互いの主体性が発揮できる活動を行います。また，特別支援学校の児童生徒が，分かりやすく，一人でも活動できる工夫をします。	P.30へ
事後学習	活動を振り返ることで，次回への期待が膨らみます。また，児童生徒が自分を見つめ直す機会になります。	P.31へ
評価，検討，改善	活動内容，児童生徒の様子，先生の支援方法などを振り返ります。保護者からの感想も聞き，次の活動に生かします。	P.32へ
反省と次年度に向けての打合せ（実施報告書記入）	本年度の成果と課題について共有し，次年度に向けて話し合います。また，特別支援学校の保護者から次年度の希望を聞き，両校で把握しておきます。	P.32へ P.38へ
課題の改善，修正	本年度の課題点をどうしたら改善できるか考え，修正します。担任が替わる場合は，引き継ぎをして次年度へ。	P.32へ P.39へ
次年度へ		

第２章　展開のポイント

交流及び共同学習を計画的・組織的に推進していくには，学校体制を整え，一年間の見通しをもち，打合せを重ねながら改善し，次の取組につなげることが大切です。

学校体制づくり

ガイドブック P.12~14

○校長の理解とリーダーシップが重要です。
○教育課程に必ず位置付けましょう。
○校内の推進組織を明確にし，チームで進めましょう。

計画的・具体的な打合せを行うには

ガイドブック P.16~25

○できる限り直接会って，お互いの顔を見ながら打合せをしましょう。
○活動内容を検討するために必要な情報が分かる資料等を準備しましょう。
○具体的な活動内容等が確認し合えるよう「授業用打合せシート」等を活用しましょう。（ガイドブックP.21 参照）
○こまめに連絡を取り合いましょう。

具体的な学習内容や活動内容の工夫

ガイドブック P.30

○両校の児童生徒が楽しむことができ，進んで行える内容にしましょう。
　例としては，調理，音楽，運動など活動的なものがあげられます。
○特別支援学校の児童生徒が好きなことや得意なことを取り入れましょう。
○特別支援学校の児童生徒の実態によっては活動を絞って行うなど，余裕のある時間設定にしましょう。
○学級に知っている児童生徒がいる場合は，座席をとなりにしたり，ペアやグループに入れたりするなどの配慮をしましょう。

第３章　実践編

実際に交流及び共同学習を行う際は，しっかりと目標設定をし，事前・事後学習を計画的に進め，児童生徒が自然なかかわり合いができる内容の授業実践を行い，具体的に評価することが大切です。

１　小学校と特別支援学校との交流及び共同学習

小学校通常の学級と特別支援学校小学部２年生，知的障がいのある児童の実践例を紹介します。

実践例１

小学校	教科・領域	特別支援学校
◇体育「プールで水遊び」		◇自立活動

目標設定

〈教科・領域等の目標〉
◇水中での遊びを通して水に慣れ，水に浮いたりもぐったり，水中で息を吐いたりすることができる。
◇水中での運動に進んで取り組み，仲良く運動したり，安全に気を付けたりすることができる。

〈相互理解に関する目標〉
◇自分から進んで手をつないだり，じゃんけんをしたりし，楽しく活動することができる。
◇活動中に友だちが困っている様子に気付くことができる。

〈個別の指導計画からの目標〉
◇自分から友達に話しかけ，人とのかかわり合いを楽しむことができる。
◇バランスを崩し転びそうになった際に手を床につけるようになる。

〈交流及び共同学習の目標〉
◇同年代の友達とかかわる経験をし，周りの人へ関心をもつ。
◇大きな集団でも自分の力を出して活動することができる。

事前学習

◇特別支援学校の友達の理解
・友達の通う特別支援学校は，どこにあってどんな学習をしているのかなど写真や絵本を使って学習。
・特別支援学校の児童の自己紹介カードを活用して理解を広げる。

◇クラス紹介カード作成
・一人一人の写真と好きなことなどを書く。

◇日程確認

◇自己紹介カード作成

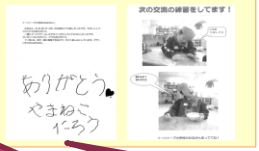
◇学校訪問
・自己紹介カードと学級通信を持って小学校へ行き，交流及び共同学習を行う教室見学

◇水遊びの準備（事前の打ち合わせで確認）
・じゃんけん列車ゲームの練習
・水中宝探しの練習
・け伸びの練習

事後学習

◇活動を振り返り，感想文を書く。
◇学級通信に活動の様子を載せ，特別支援学校に送る。

◇記録写真を見ながら，楽しかったことなどを振り返る。
◇学級や学部の友達に発表する。
◇ありがとうの手紙を書き小学校まで届ける。



評価

〈児童の評価〉（「活動振り返りメモ」活用）
◇活動中の児童の表情や様子，発言等から
○水遊びのゲームの際，手が離れないように意識し，友達のペースに合わせている様子が見られた。
◇保護者との情報交換から
○スーパーに買い物に行った際，特別支援学校の児童に自分から声をかけ積極的にかかわろうとする姿が見られた。
◇活動後の児童の発言や様子から
○プールの授業の際，特別支援学校の友達とまた一緒に水遊びの授業がしたいと児童が話し，よりかかわり合いが深まってきた。

〈授業の評価・取組の評価〉
◇児童の評価から活動内容や支援内容について振り返る。
○手をつないだり，じゃんけんをしたりしてゲームを楽しみ，児童同士が多くかかわれる内

〈児童の評価〉（「活動振り返りメモ」活用）
◇活動中の児童の表情や様子，発言等から
○自分から友達の側に行き，その友達に楽しそうに微笑む姿が見られ，本児の学校の児童以外へのかかわり合いが見られた。

◇先生同士の情報交換
○け伸びの練習の際，周りの友達の動きをじっと見つめ自分も同じようにやってみようと挑戦する姿が見られた。

〈授業の評価・取組の評価〉
◇児童の評価から活動内容や支援内容について振り返る。
○たくさんの友達を見てまねをするという，特別支援学校では経験できない貴重な体験ができた。

目標設定
小・中学校は，教科・領域等の目標と相互理解の目標，特別支援学校は，個別の指導計画からの目標と交流及び共同学習を通して達成したい目標を設定します。

授業実践

学習活動と内容	活動場面での支援及び配慮事項
１　挨拶 ・始まりの挨拶 ・特別支援学校の児童挨拶 ・今日の学習内容の確認	・授業の流れは，あらかじめ「授業用打合せシート」で確認し合い，小学校の先生がＴ１となって進める。特別支援学校の先生は，Ｔ２として特別支援学校の児童を中心に支援する。 ・特別支援学校の児童は挨拶の練習をしておく。
２　準備体操 ・ラジオ体操 ・補充体操	・スケジュールボードを使って確認をする。 ・Ｔ２は，できないところは，介助に入る。
３　水遊び ・プールサイドに座って水慣れ ・みんなで手をつなぎ水中を歩く 	・プールサイドを走らないように声がけをする。 ・整列からバディを作り，必ず入水中，入水後友達がいるか確認する。 ・Ｔ２は，特別支援学校の児童がバランスを崩しおぼれないか注意し，必要な場合はすぐに介助に入れる場所にいる。
・２人組で宝探しゲーム ・じゃんけん列車 	・宝探しでは，必ず２人で手をつないだ状態で水中からダイブボールを探すよう声がけをする。

手をつないだり，肩につかまったりと児童同士がふれ合える工夫をしています。

事前・事後学習
両校の活動内容を確認し合い計画的に進めます。自己紹介カードや学級通信等の交換をしてみましょう。

評価
児童生徒の育ち合い等を授業の様子や情報交換から評価し，授業や取組について具体的に評価します。

※研究内容の詳細や交流及び共同学習のガイドブックは，当センターＷｅｂページに記載しています。